

シンポジウム
福島第一原子力発電所事故による環境放射能汚染の現状と課題
—今、大気環境から考える放射能汚染—

主催：公益社団法人大気環境学会、大気環境学会北海道・東北支部

共催：福島大学、独立行政法人国立環境研究所

後援：福島県、福島市

日時：2014年1月24日（金曜日）10時から17時まで（昼休み1時間）

場所：〒960-8044 福島県福島市早稲町1-1 こむこむ わいわいホール

講演内容（敬称略）

第1部：事故直後の放射性物質の大気中での挙動はどこまでわかったか

- ① [鶴田治雄（東大大気海洋研究所）：観測データからわかったこと](#)
- ② [滝川雅之（海洋研究開発機構）：モデルによる放射性物質の大気中濃度の推定](#)
- ③ [森野 悠（国立環境研究所）：大気シミュレーションモデルは放射性物質の沈着量をどこまで再現できるか？](#)

第2部：現状はどうなっているか？

- ④ [渡邊 明（福島大学）：放射性物質の大気中濃度・降水量などの長期変動](#)
- ⑤ [北 和之（茨城大学）：放射性物質の土壌と森林からの再飛散](#)
- ⑥ [今泉圭隆（国立環境研究所）：多媒体間の移動のモデリング](#)
- ⑦ [大原利真（国立環境研究所）：現状の俯瞰的理解のために](#)

第3部：将来の課題と問題点

- ⑧ [浅妻新一郎（日本原子力研究開発機構）：除染に伴う課題と対策](#)
- ⑨ [滝上英孝（国立環境研究所）：廃棄物処理に伴う課題と対策](#)
- ⑩ [森口祐一（東京大学工学系研究科）：環境回復に向けた総合的な課題](#)